

はしがき

社会保障制度は、「社会的セーフティネット」と呼ばれています。セーフティネットとは、サーカスのブランコの下に置かれているネットを意味し、まさに生活における最後の命綱と言えるでしょう。年金制度は、老齢・障害・遺族（死亡）を理由とする所得の減少をカバーするという重要な社会保障におけるセーフティネットと指摘できます。

現在でも、年金制度への関心がいっそう高まっていますが、若い人のなかには、支払った保険料ほど、年金は貰えないという声が少なくありませんが、「では、その根拠は？」と聞くと、「テレビ等で観たことがある」と漠然とした回答が返ってくる人が多いようです。このように、年金制度には誤解されているところが少なくないのですが、その最大の原因は、年金制度じたいが複雑すぎる点をあげることができます。

そこで、本書の特徴は、①複雑な公的年金制度をわかりやすく解説されていること、②国民年金、厚生年金のみならず、私立学校教職員共済、公務員共済についても紹介されていること、③各年金制度における負担額（保険料額）と給付額（年金額）とが具体的に表示されていること、④コラムにおいて、年金制度が抱えている課題を示すことにより、年金制度の問題を考える素材を提供することにあると自負しています。

本書によって、年金制度へのいっそうの理解が深まり、わたしたちが安心して過ごせる社会を構築するための、小さな一助となれば、著者にとってこれ以上の喜びはありません。現在年金を受給している人、もうすぐ年金を受け取る予定の方々だけでなく、将来年金給付を受ける若い人たちに、ぜひ本書を読んでいただきたいと願っています。

なお、本書の出版にあたっては、法律文化社編集部の小西英央氏および瀧本

佳代氏に、ひとかたならぬご尽力をいただいております。ここに御礼を申し上げます。

2010年9月

著 者